

誰もが自分らしく生きるために ～多様な性を認め合える社会を目指して～

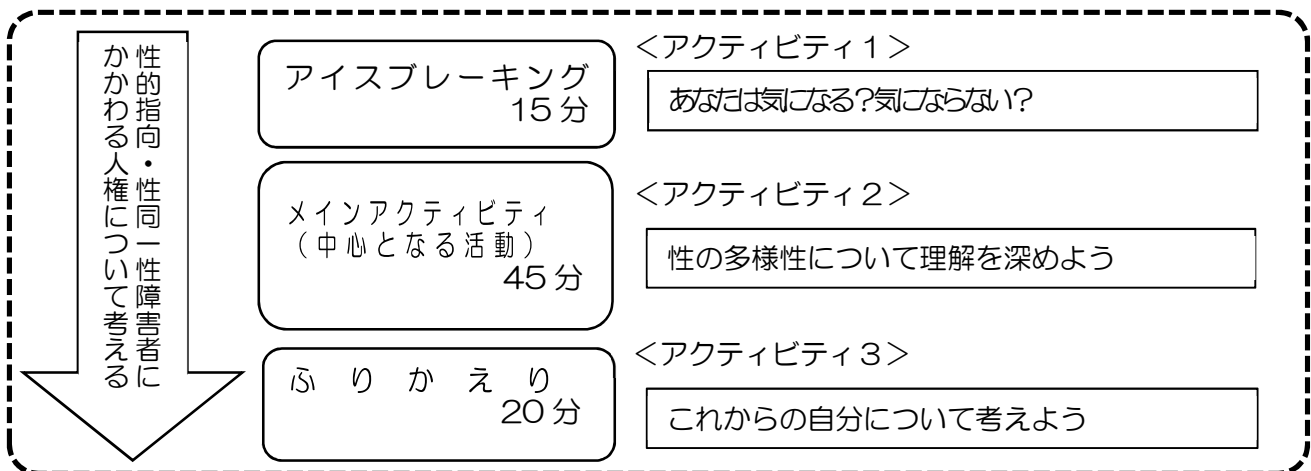
性的指向・性同一性障害者
にかかわる人権問題

ねらい

性の多様性にかかわる正しい知識と認識を持つとともに、周囲に理解されないことによる性的少数者の生きづらさを知り、性的少数者が自分らしく生きていくことができる社会をつくるために、心掛けたいことや自分にできることについて考えます。

時間	80分	人数	1グループ3～5人
準備	資料①・②・③ ワークシート①・② 封筒 筆記用具		

学習の流れ



<アクティビティ1> あなたは気になる?気にならない?

活動のねらい

自己紹介と「あなたは気になる?気にならない?」の活動をとおして、これからの学習に向けて関心を高めます。

実施の際のポイント

「お題」は、参加者が話しやすい内容にして、グループの雰囲気や和ませるようにします。例「この三日間で嬉しかったこと」等。

活動の進め方

<準備> 資料① (8枚に切って、封筒の中に入れて用意)

1 グループの中で順番に、一人1分間で自己紹介をします。

<自己紹介の仕方>

- ・初めに名前と所属などを言います。
 - ・あらかじめ決めておいた「お題」について話します。
- 2 「あなたは気になる?気にならない?」に取り組みます。
- ・封筒に入っているトークカードを1枚引き、書かれている内容や言葉から感じたこと、思ったことについて話し合います。
 - ・意見交換が終わったら、次のカードを引いて話し合います。
 - ・決められた終了時刻まで繰り返します。

話し合いでは、気になる理由や気にならない理由を伝え合いながら、男女それぞれに対する固定観念や偏見に気付くように促します。

<アクティビティ2> 性の多様性について理解を深めよう

活動のねらい

多様な性のあり方を理解されないことによって、性的少数者が生きづらさを感じたり、固定観念や偏見から差別などの人権問題につながっていたりすることを認識し、性の多様性についての理解を深めます。

活動の進め方

<準備>資料②・③ ワークシート①

- 1 資料②を示し、LGBT など性的少数者について、一人一人の性は複雑で、世の中に存在する性は多様であることを理解します。
- 2 ワークシート①のエピソードを読み、登場人物の「ある女性」が性的少数者として抱える不安や悩みについて話し合います。

【不安を感じたり、悩んだりする理由の例】

- 好きになる性が、周囲の友達とは違うことに気付いた疎外感から
- 他の女性と同じように、異性を好きになれないから
- 恋愛対象が同性にしか向かないことは、自分でもどうにもならないから
- 自分自身が一体何者なのか、自分でも分からないから
- 友達や家族に自分のことを受け入れてもらえないかも、という怖さから
- 好きな人が同性であるために、素直に好きと伝えられないから
- 好きな人に、同性愛や同性愛の私を受け入れてもらえるのか分からないから
- 同性愛であることを周りの人に暴露されるかもという怖さがあるから

- 3 性的少数者は、人との関わりや日常生活を送る上で、どのような生きづらさを抱えているかを考えたり、想像したりしたことをワークシート①に記入します。

【生きづらさの例】

- 言葉による差別や暴力を受ける
- いじめられたりからかわれたりする
- 結婚差別や就職差別を受ける
- 男らしさや女らしさを強要される
- 男女に分けられた学校生活を無理にさせられる
- アウティング（暴露されること）される
- 信じていた人から裏切られる
- 仲間はずれにされる
- 仲間がない
- わがままと捉えられる
- 性自認とは異なるトイレに入りたくない
- 笑いのネタにされる

- 4 ワークシート①に記入したことをグループで話し合い、出された意見を全体で発表し合います。
- 5 資料③から、性的少数者が抱えている生きづらさの背景について考えます。
- 6 (5) で考えたことをグループで話し合い、出された意見を全体で共有します。

【共有したい意見の例】

- 性的少数者への偏見や固定観念
- 性的少数者への無理解
- 差別意識
- 周囲の人の受け入れない雰囲気
- 理解しないことによる嫌悪感

実施の際のポイント

LGBT を含む性的少数者に該当する人の割合は約 8.9%であり、それは 11 人に 1 人の割合であったという調査結果があります。

出典：「電通ダイバーシティ・ラボ LGBT 調査 2018」

グループに当事者がいるかもしれないことに配慮するよう伝えます。

「登場人物は、どうして不安を感じたり悩んだりしたのでしょうか。」と問いかけ、登場人物の不安な気持ちに寄り添いながら、その理由について共感的に話し合うように伝えます。

「ある女性」のエピソードの不安や悩みは性的少数者の抱えているほんの一部でしかないことを伝え、資料①で示した性的少数者の立場になって、生きづらさを具体的に話し合うように促します。

学校や職場等の様々な場面で見聞きしたことやメディアから得た情報を基に考えたり、想像したりして、記入するように声をかけます。

「性的少数者が抱えている生きづらさは、何によるものだと思いますか。」と問いかけ、話し合いから自分自身にある固定観念や偏見に気付くように促します。

<アクティビティ3> これからの自分について考えよう

活動のねらい

性的少数者が自分らしく生きることができる社会をつくるために、自分には何かできるかを考え、自分にできることを行動に移していこうという意欲を高めます。

実施の際のポイント

活動の進め方

<準備>ワークシート②

- 1 ワークシート②を読みます。
- 2 性的少数者が自分らしく生きることができる社会をつくるために、どのようなことを心掛けていけばよいかワークシート②に記入します。
- 3 ワークシート②に記入したことをグループで話し合い、出された意見を全体で発表して共有します。

多様な性を認め合い、互いに尊重し合うために、自分たちができることについて考えを深められるようにしていきます。

性に対する多様な価値観を受け入れて、全ての人の人権が尊重された社会を築いていくことの大切さについて触れます。



男子は我慢、泣いちゃダメ



女子は笑顔、愛想よく



男なのに、美容院に行くの？



女なのに、トラックの運転をするの？



お茶出しは女性 力仕事は男性



トイレの表示 男は青 女は赤



男は度胸 女は愛嬌



女々しい 雄々しい

性のあり方は、下記のように複雑な要素で構成されています。一人一人の性は複雑にできており、世の中に存在する性は多様です。

性のあり方 = からだの性 (生物学的性) × こころの性 (性自認) × 好きになる性 (性的指向) × 表現する性 (服装や行動)

好きになる相手が同性や両性の人（性的指向）、また自分の身体の性別に違和感をもっている人（性同一性障害者）がいます。こうした人たちは、社会の中で少数であるため、「性的少数者」と呼ばれます。その性的少数者を表す言葉として「LGBT」という言葉が一般的に使われることがあります。

頭文字	名 称	特 徴
L	レズビアン (Lesbian)	女性同性愛者。女性を恋愛対象としたり、女性に性的魅力を感じたりする女性。
G	ゲ イ (Gay)	男性同性愛者。男性を恋愛対象としたり、男性に性的魅力を感じたりする男性。
B	バイセクシャル (Bisexual)	両性愛者。男性も女性も恋愛対象としたり、男性にも女性にも性的魅力を感じたりする人。
T	トランスジェンダー (Transgender)	自分の生まれたもった身体の性に違和感がある人。

また、自分の性別が分からない人（クエスチョニング）を加えて、「LGBTQ」という言い方もあります。さらに、性的指向が男性でも女性でもない、トランスジェンダーでレズビアンである等、性的指向や性自認のあり方は多様です。

【声】

幼稚園時代、僕ともわたしとも言えず自分のことを、自分と呼んでいたら「女の子だからわたしでしょ。」と幼稚園の先生に直された。恥ずかしくてなかなか自分を呼べなかった。(引用 A)

【声】

子育ての場面で、保育園に男女が青と赤に分かれていたスモックの色について問題提起したら、黄色に統一してくれて嬉しかった。(引用 A)

【声】

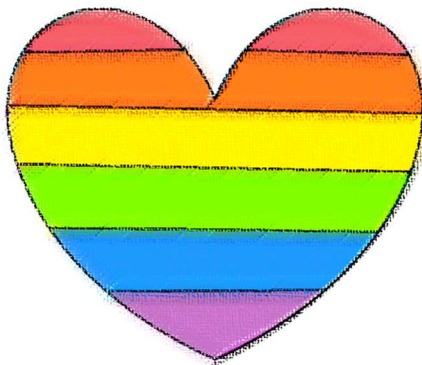
制服など嫌なことはたくさんあったが、一番問題になったのは、その「嫌だということ」という気持ちが「おかしい、変だ。」と言われねじ曲げられたこと。(引用 A)

【声】

学校や教科書で多様な性に関して適切な情報を得られず、相談できる場所もなかった。インターネット上で情報を探しても不正確なものばかりで、「誰かにバレたら生きていけない。」「大人になれない。」と思った。(引用 B)

【声】

メディアで性別違和や同性愛をおかしいものと話したり、存在しないとしたり、笑いのネタにしたり、カミングアウトした当事者に対して否定したりするのを見て、深く傷つけられた。 ※カミングアウト：打ち明けること (引用 B)



【声】

毎年高校の文化祭で GAY (ゲイ) コンという女装コンテストがあったが、その話になった時に国語の先生が、「ゲイイコール女装ではない」とひとこと言ってくれた。誰も気にしていなかったが、私には安心感があった。(引用 A)

【声】

テレビ番組に出演しているオネエタレントを見て、親が「生まれてくる子がゲイなら中絶する。」「うちの家族にはいなくてよかった。」と言われ、傷ついた。(引用 B)

【声】

地方では、周囲に性的指向や性自認等についてカミングアウトしづらく、心から打ち解けられる友人ができず、住み慣れた土地を結局離れて都会に出ざるを得なかった。(引用 B)

【声】

トイレや更衣室を分けてくれた。カミングアウトからその対応までが迅速で感謝した。戸籍上は女性だが、自分を指すときに「彼」と言ってくれた。自分はその場にいなかったが、そのように認識してもらえて嬉しかった。(引用 A)

【声】

避難所を管理する自治体職員に性的指向や性自認への配慮を求めたところ「こんな大変な時にわがままを言わないでほしい。」とたしなめられた。(引用 B)

「ある女性」のエピソード

私は「女性」です。

幼少期から小学生の頃は、男の子とも女の子とも遊んでいました。中学生になり、友達同士で好きな男子のうわさ話をするようになりましたが、私は興味がありませんでした。友達と話を合わせられるように、好きな男子を見つけようと努力しましたが、見つけれませんでした。その後、共学の高校に通うようになり、私のことを好きになってくれた男子がいて、「付き合えば好きになるだろう。」と思いましたが、やっぱり好きになれませんでした。

私は、ほかの女子と同じようには男子を好きになれなかったので、「自分は変なの？どうしてなの？私だけなの？」と、不安な気持ちでいっぱいになりました。そして、友達はこんな自分を受け入れてくれないのではないかと、毎日悩み続けました。

最近、心の底から好きな人ができました。職場の同僚です。好きになればなるほど、その人に本当の私を知ってもらいたいという気持ちが強くなってきています。でも、受け入れてもらえなかったらどうしようという不安な気持ちもあります。その人との関係が悪くなってしまうなら、ずっと黙っていた方がいいのではないかと、苦しい気持ちでいます。

その私の好きな人は、私と同じ「女性」なのです。

- ◎ 性的少数者は、人との関わりや日常生活を送る上で、どのような生きづらさを抱えているでしょうか。

誰もが自分らしく生きるために
～多様な性を認め合える社会を目指して～

これからの自分について考えよう



参考：「人権教育指導者用リーフレット」（栃木県教育委員会）を基に作成

- ◎ 性的少数者が自分らしく生きることができる社会をつくるために、どのようなことを心掛けていけばよいでしょうか。